

ベラルーシ新体操チームヘッドコーチらが来学 ～事前合宿に関する協定書を締結～



協定書への署名後の記念撮影（中央がレパルスカヤヘッドコーチ）

6月14日（水）にベラルーシ共和国ナショナル新体操チームのヘッドコーチであるイリーナ・レパルスカヤさんと同体操協会体操協会職員のヴィクトリア・イマナリさんが仙台大学を訪問されました。

このほど、ベラルーシ新体操チームは2020東京オリンピックの事前合宿を白石市と柴田町（仙台大学）にて2018年より2020年までの3年間実施することを決め、「第32回オリンピック競技大会事前合宿に関する協定書」の締結、及び会場の視察のために来日されました。14日の午前中には白石市で協定書の締結式と白石市ホワイトキューブを視察。同日午後には本学を訪問され、第五体育館やトレーニングセンター、ATルーム等の施設を念入りに視察されました。なお、今年は10月7日に東北子ども博と同時に本学第5体育館で、8日には白石市ホワイトキューブを会場に「新体操代表選手によるエキシビジョン」を開催する予定です。

また、夕方からは柴田町内にあるホテルを会場に、仙台大学・白石市・柴田町の関係者、ベラルーシ共和国の首都ミンスク市と姉妹都市となっている仙台市および宮城ベラルーシ協会の関係者など総勢34名による交流会が開かれ、スポーツの枠を超えて白石・柴田とベラルーシの相互交流がスタートしたことを確認し合うことができました。



本学来訪の記念撮影（LG棟にて）

【報告：柴田町創生事業支援プロジェクトチーム】

〈目次〉

| | |
|---|---|
| ・ベラルーシ新体操チームヘッドコーチらが来学 | 1 |
| ・中井憲治氏、遠藤保雄氏の「春の叙勲をお祝いする会」を開催 | 2 |
| ・留学生日本文化体験ツアーを開催 ・仙台大学開学50周年記念行事⑥ ・七十七銀行陸上競技記録会を開催 | 3 |
| ・船岡小学校でレクリエーションダンス指導 ・東船迫中学校の生徒が職場体験 | 4 |
| ・水泳部 星選手がデフリンピック日本代表選手に選出 ・柔道部が花いっぱい運動に参加 ・熱中症にご注意を | 5 |
| ・台東大学空学生が来訪 ・バドミントン部が優勝報告 ・学科一日体験会が開催されます | 6 |
| ・日本教授学習心理学会開催 | 7 |

学生の活躍や、取り組みなどをご存知でしたら広報室までお寄せください。

Monthly Reportで紹介する他、報道機関にも旬な話題を提供して参ります。

本誌へのご意見・ご質問等がありましたら広報室までご一報ください。

仙台大学 広報室
直通 0224 - 55 - 1802
Email kouhou@sendai-u.ac.jp

中井憲治氏・遠藤保雄氏の「春の叙勲をお祝いする会」を開催

6月22日、仙台市内において、この春叙勲された学校法人朴沢学園理事・仙台大学客員教授の中井憲治先生(瑞宝重光章)および仙台大学上級リサーチャー・東京事務所長の遠藤保雄先生(瑞宝中綬章)をお祝いする会が賑やかに開催されました。

会には、お2人の母校である仙台一高の17回生、法人事務局、明成高校、仙台大学の教職員など約60名が集まり、仙台一高27回生の池田敦司准教授の司会でスタートしました。最初に発起人である17回生五十嵐善正氏より「高校の同級生からこのような立派な褒章を受けたお2人が誕生したことは非常に喜ばしく、母校の誉です」というご挨拶がありました。次いで、同じく17回生佐々木直哉氏の乾杯により参加者が祝杯を挙げました。

その後、小松正子教授・菊地直子准教授・柴田千賀子准教授から花束贈呈を、また、高成田享教授のご祝詞、17回生の小室良太郎前コンサルタントの祝歌、ピアノ演奏者のジャズなどで、祝う会は進行了ました。

受章者の遠藤先生からは、「このような会を催していただき感謝感激です。仙台大学で教鞭をとるまでは、国、特に、霞が関に身を置き、種々貴重な経験をさせて頂きました。若いときにハーバード大の研究機関に派遣され、今、閣僚として活躍している方と机を並べて議論する機会を得たこと、80年代後半に米国ワシントンDCで大使館に勤務し厳しい農産物貿易自由化交渉を経験する中で、米国政治の意思決定過程を直接この目で見る事が出来たこと、国連関係の業務も経験し、90年代半ばの世界食糧サミットでの論戦への参加や、途上国援助の経験の中で、日本は経済大国とはいえ160国のうちの1国に過ぎないという国際社会の厳しい現実を突き付けられたこと・・・など多くの思い出があります。このような経験をし得たのは、かつて仙台で学び、皆様から多くのご恩を頂いたからと強く感じています。これから、そのご恩には仙台大学で教鞭をとることで少しでも報いることが出来ればと思っています」というお礼の言葉が述べられました。

続いて中井先生からは、「多くの方々のご支援を受け、この度、叙勲の栄に浴しました。深謝いたしております。加えて本日、このようなすばらしい席をもうけていただき感激です。(現)栗駒市の細倉中学から仙台一高に学んだ青春の日々が思い起こされ、ここ仙台の地で明日の人材育成のお手伝いができる幸せを、あらためて実感します。叙勲直後、名古屋の剣道七段審査では、四度目の桜散りましたが、今宵、皆様のご芳情に鼓舞され、さらに修練を重ねたい所存です。今後とも、よろしくご指導、ご高配のほど、お願い申し上げます。本当にありがとうございました」とそれぞれ謝辞がありました。

最後に発起人の朴澤理事長・学事顧問より、「我々の高校時代の学年主任だった今は亡き恩師の金沢規夫先生は、我々生徒に対し、何事も先陣を切ることが仙台一高の伝統であり常に心がけるべしと諭されたが、本学園に縁のある同期二人がこの伝統を継承したことを記念し祝賀会を企画したところ、多数のお集まりを得てお祝いが出来たこと、大変、感謝申し上げます。」とご挨拶があり、和やかなうちにお開きとなりました。



法人事務局、明成高校、仙台大学の教職員と共に
(中井先生は前列左から2人目、遠藤先生は同3人目)



仙台一高17回生と共に笑顔の中井先生(前列右)と遠藤先生(同左)

留学生日本文化体験ツアーを開催

6月18日（日）に登米市歴史資料館および登米伊達家にて日本文化体験ツアーが行われました。この会は本学客員教授である伊達宗弘先生に登米市の歴史的な建造物や一級河川である北上川を案内していただき、留学生に日本の伝統文化や歴史を学んでもらおうという趣旨で定期的に行われています。

朴澤理事長・学事顧問をはじめ、留学生や教職員も含め計26名の参加者が集まり、当日は天候にも恵まれ、無事にすべての建造物を見学し、各展示では、担当の方から許可を頂き、写真やビデオ撮影を行いました。

登米市に到着後、国指定重要文化財である尋常小学校へ向かうと、留学生は手動のミシンや黒電話などを実際に手にとり、また当時の教室を再現した展示では袴を試着して写真を撮るなど、昔の道具や衣服に大変興味を示しているようでした。昼食の後、伊達家ゆかりの鎧や兜などの武具が展示されている登米懐古館へ向かい、武具や絵画を真剣な表情で見ている様子が伺えました。武家屋敷・春蘭亭では、抹茶と和菓子をいただくことができ、留学生はお茶の苦さに驚く人もいれば、和菓子をお土産用に購入するなど、反応はさまざま



明治時代の衣装で記念撮影

でした。北上河湖畔では、留学生は各々の景色を眺めたり、たくさん写真を撮るなど、散策を楽しんでいました。伝統芸能伝承館である森舞台では、登米町に

代々伝わる「登米能」などが盛んで、長年大切に受け継がれています。この舞台を設計したのは隈研吾（くまけんご）氏で、2020年の

東京オリンピック・パラリンピックに向けた新国立競技場の設計にも携わっています。

一通り資料館を見て回り、最後に伊達先生のご自宅を拝見させていただきました。登米伊達家に代々伝えられている日常用品や中国の秦の時代の硬貨など、普段目にするのことができないものがたくさん展示されており、まるでひとつの資料館のようでした。また、ご自宅で飼っている蜜蜂から作られた、はちみつを試食させていただき、留学生は驚きながらも、美味しそうに食べていました。

留学生にとって今回のような機会は、とても貴重な時間だと思います。日常生活では得られない知識や体験は、留学生にとってこれからの財産になっていくことでしょう。

【報告：学生支援センター 大久保 成実】



ツアーに参加した留学生達

仙台大学開学50周年 同窓会記念行事◎

「七十七銀行陸上競技記録会チャレンジ2017」を開催

6月4日（日）七十七銀行記録会チャレンジ2017を、弘進ゴムアスリートパーク（仙台市陸上競技場）にて、七十七銀行陸上競技部と仙台大学の共催で開催しました。チャレンジ第10回と仙台大学創立50周年の記念大会となる今大会では、約100名の陸上競技部員が競技役員として大会の運営に携わりました。陸上競技部は、地域貢献の一環として本学陸上競技場にて定期的に陸上競技会を開催していますが、本大会はこれまでに経験したことのない1日で2,000人の参加者、タイトな競技日程、慣れない競技場など、不安な点がありましたが、しっかり計画準備をし、大会中も様々な状況やトラブルに対処しながら、大きな滞りなく運営することができました。参加者や引率者には多少の心配や迷惑をかけた点もあったかと思いますが、これだけ大規模な競技会を陸上競技部員だけで運営できたことは、学生たちにとって大きな自信につながったと感じています。

七十七銀行記録会チャレンジHP (<http://77challenge.sendaiutf.org/>)

【報告：陸上競技部監督 講師 門野洋介】



競技審判も務めた陸上部員

東船岡小学校でレクリエーションダンスを指導 ～ 21名の学生スタッフが参加～

6月24日（土）東船岡小学校で全校児童332名を対象とした「レクリエーションダンスによるコミュニケーション能力の向上を図るイベント」の指導を本学学生21名が行いました。

このイベントは、本大学の学生が全校の児童にダンスを指導することで、児童同士の信頼関係や、円滑なコミュニケーションのとり方を学ばせるという趣旨で行われました。

主なダンスの内容は、「あいうえお体操」と「エバダンス」で、児童にまずパフォーマンスとしてダンスを見せ、次に16班に分かれた児童の中に学生が一人ずつ混ざり、音楽に合わせてダンスを教えていくという流れでした。

東船岡小学校の榊原教頭先生がユーモアあふれる進行をしてくださり、楽しい雰囲気を出しながら、本学の学生がとびっきりの笑顔でダンスパフォーマンスをすると、児童たちは目を輝かせていました。

各班に分かれて行う「エバダンス」では最初こそ指示が通らない、動き方がわからないなどの不安な部分がありましたが、動きを覚えた5、6年がわからない児童に教えていたことで、最終的にすべての班が楽しんで踊っている姿が見受けられました。

教頭先生に一番上手に踊れた班を決めてもらうことになったとき、消極的な子どもや積極的な子どもも、1番を目指すために一生懸命取り組んでいました。

本学の学生たちも小学生の関わりを通して、自分ができていること、わかっていることを教えることの難しさや、コミュニケーション能力の向上の大切さを同時に学ぶことができたのだと思います。

それぞれの進路や将来の夢を達成するために、今回のような経験は学生たちにとって、必ず活かされることでしょう。 【報告者：学生支援室 大久保成実】



児童にレクリエーションダンスを指導する学生

船迫中学校の生徒が本学で職場体験 ～ 2名の生徒がLC棟の取材レポートを投稿してくれました～

私たちは6月28日（水）と29日（木）の二日間、仙台大学で職場体験を行いました。職場体験では、図書館での図書整理作業や入試創職室での求人票整理作業などを行わせていただきました。広報室業務の体験では取材体験をさせていただきましたので、その体験で作った記事を紹介したいと思います。

今回は仙台大学で最も新しい施設である「LC棟」について取材しました。LC棟は平成28年1月に竣工した施設で、LC棟とはラーニング・commons (Learning Commons) の略で、自習やグループ学習用の設備や器具などが準備された学習空間という意味ということでした。このLC棟では学習やミーティングの他、オリンピックの際のパブリックビューイングや記者会見など様々な形で使用されているそうです。

LC棟の中で最も注目すべき施設は「プレイルーム」です。ここでは大学で働く教職員の子どもの一時的預かり保育室で、現在は9名の子どもたちを保育士1名と保育補助2名で預かっているということでした。私たちが見学に行ったときにはちょうどお昼寝の時間で中の様子を詳しく見ることはできませんでしたが、プレイルーム内には木を使った遊具を多く取り入れているということが分かりました。

今回の取材を通して、中学校よりも大きな施設があることに驚き、また、プレイルームなどは学生だけでなく教職員にも優しい施設であると感じました。

二日間の職場体験では大変お世話になりました。今回の体験で学んだことを将来に生かしていきたいと思っています。

【記事作成：柴田町立船迫中学校2年 伊藤、伊東】



図書整理を行う伊東さん（上）と伊藤さん
写真提供：柴田町立船迫中学校

デフリンピック2017水泳日本代表に星 泰雅選手が選出 ～阿部学長を表敬訪問～

トルコのサムスン市において7月18日～30日に開催される「デフリンピック2017トルコ・サムスン大会」へ水泳競技の日本代表選手に星 泰雅さん（体育学科1年-東北高校出）が選出されました。デフリンピックは4年に1度開催される聴覚障がい者の国際的総合スポーツ大会で、夏季デフリンピック大会は1924年にフランスで第1回大会に開催されてから今回で23回を数えます。

6月16日（金）には、水泳部の渡邊泰典部長とともに阿部学長を表敬訪問しました。

星選手は50M自由形、100M自由形、100Mリレー、メドレーリレーの4種目に出場する予定で「個人では決勝に残ることが目標。二つのリレーでは金メダルをとりたい。飛び込みは課題があると感じているので、課題を少しでもクリアタイムを縮めたい」と大会への抱負を述べました。阿部学長からは「デフリンピックでの活躍を期待しています。伸び伸び頑張ってきてください」と激励の言葉がかけられました。

一般社団法人 日本ろう者水泳協会<https://deaf-swim.com/>



日本代表に選出されたことを阿部学長に報告した星選手（中央）

花いっぱい運動に柔道部が参加

6月2日（金）「柴田町環境美化花いっぱい運動」に柴田町商工会女性部と仙台大学柔道部の学生が参加しました。当日は、船岡駅前での花の植え替え作業のち、植え込み作業を行ったプランターを路上に並べました。初めのうちは花の植え替えや植え込み作業に手間取っていた学生達ですが、すぐに慣れて途中からは要領よく作業を進めていました。作業中は柴田町商工会女性部の方と学生たちは談笑しながら楽しく作業を進め、地域の方との交流という意味でも非常に良い機会であったと思います。今回の運動が町内の環境美化並びに地域の活性化の一助となれば幸いです。



気持ちを込めて植えました



商工会女性部の皆さんと

【報告：学生生活室 加藤琢磨】

熱中症にご注意を！

～今年もATルームから熱中症速報を配信～

6月26日（水）より、ATルームから「熱中症速報」が配信されています。この速報は第一体育館、第二体育館、第五体育館、陸上競技場、ラグビー・サッカー場の5か所のWBG T値（湿球黒球温度）を計測し、熱中症予防運動指針を学内にメール配信並びに、計測場所に掲示しているものです。

本格的な梅雨を迎えて熱中症のリスクも高まってきている季節です。ATルームからの熱中症速報を参考にし、本学からの「熱中症ゼロ」を目指しましょう。

なお、この速報の配信は9月25日（月）まで行われる予定です。

熱中症予防のために

暑さを避ける

室内では・・・

- ▶ 扇風機やエアコンで温度を調節
- ▶ 遮光カーテン、すだれ、打ち水を利用
- ▶ 室温をこまめに確認
- ▶ WBG T値も参考に

外出時には・・・

- ▶ 日傘や帽子の着用
- ▶ 日陰の利用、こまめな休憩
- ▶ 天気の良い日は、日中の外出をできるだけ控える

からだの蒸熱を避けるために

- ▶ 通気性のよい、吸湿性・速乾性のある衣服を着用する
- ▶ 保冷剤、氷、冷たいタオルなどで、からだを冷やす

※WBG T値：気温、湿度、輻射（放射）熱から算出される暑さの指標
運動や作業の量に応じた基準値が定められています。
掲載者のホームページ（熱中症予防情報サイト）に、観測値と予想値が掲載されています。

こまめに水分を補給する

室内でも、外出時でも、のどの渇きを感じなくても、こまめに水分・塩分、経口補水液などを補給する

※ 水に塩分とブドウ糖を溶かしたもの

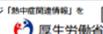


熱中症の症状

- めまい、立ちくらみ、手足のしびれ、筋力のごわら返り、気分が悪い
- 頭痛、吐き気、嘔吐、倦怠感、虚脱感、いつもと様子が変わる症状になると、
- 返事がおかしい、意識消失、けいれん、からだが熱い

詳しくは、厚生労働省ホームページ「熱中症関連情報」をご覧ください。

厚生労働省 熱中症

 厚生労働省

厚生労働省ホームページより

台湾・台東大学から22名の学生が来訪

6月23日（金）～30日（金）に本学の国際交流提携校である台東大学（台湾）から程鈺雄教授を団長に22名の学生が本学を訪問しました。

今回の来学した学生の専門分野は特別支援教育で、「台湾と日本における特別支援教育や社会福祉施設の違い」を学ぶための来学となりました。

滞在期間中には船岡支援学校や宮城県立視覚支援学校など計5箇所を訪問し、日本における社会福祉事情を一生懸命に学ぶ姿が見られました。

また、施設訪問の合間には本学学生との交流の機会もあり、大変有意義な時間を過ごしている様子でした。

【報告：事業戦略室 遠山知寿】



台東大学の学生たち

東北学生バドミントン春季リーグ戦の優勝などを学長へ報告

東北学生バドミントン春季リーグ団体戦I部男子2位、個人戦女子シングルス優勝・ダブルス優勝を果たした4名が6月16日（金）に阿部芳吉学長を表敬訪問しました。

星野博行さん（体育学科4年一青森・青森山田高出）は「6年連続インカレ出場を決めたので、インカレでは1試合ずつ大事に戦いたい」。新主将の井川零士さん（体育学科3年一北海道江陵高出）は「インカレでは上位を目指したい」と話し、女子ダブルスを制した松田ほのかさん（体育学科2年一宮城・尚絅学院高出）と女子ダブルスと女子シングルスで優勝を果たした徳能あすかさん（現代武道学科1年一宮城・聖ウルスラ学院英智高出）は「インカレでは関東勢に負けないよう1つでも多く勝ち進みたい」と抱負を述べました。阿部学長からは「今後も練習を重ねインカレでも大いに頑張ってもらいたい。」と激励の言葉がかけられました。



阿部学長に春季リーグの報告をしたバドミントン部員たち

今年も「学科一日体験会」を開催されます

今年も毎年恒例となっている「学科一日体験会」が開催されます。この学科体験会は仙台大学の「中身」を知ることを通じて、どんな勉強ができるのか、どんな先生がいるのか、将来はどんな仕事に就けるのかなどといった疑問解決のお手伝いするオープンキャンパスです。

当日はそれぞれの学科で特徴ある講義や実技のプログラムをご用意して高校生の皆さんをお待ちしております。

7月8日（土）は体育学科とスポーツ情報マスメディア学科、7月9日（日）は健康福祉学科と子ども運動教育学科、7月15日（土）は現代武道学科、7月16日（日）は運動栄養学科と延べ4日間にわたって開催されることになっており、事前申し込みが必要となっています。

申込み・お問合せ：入試創職室 0224-55-1017

仙台大学HP：<http://www.sendaidaigaku.jp/>

仙台大学 オープンキャンパス 2017

学科一日体験会

ご案内

| | |
|---|--------------------------------------|
| 7/8(土) 10:00~15:00 体育学科 & スポーツ情報マスメディア学科 | 7/15(土) 現代武道学科 10:00~15:00 |
| 7/9(日) 10:00~15:00 健康福祉学科 & 子ども運動教育学科 | 7/16(日) 運動栄養学科 10:00~15:00 |

8/5(土) オープンキャンパス 10:00~15:00 入退場自由 事前申込不要

どんな勉強ができるのか、どんな先生がいるのか、どんな施設・設備があるのか、将来はどんな仕事に就けるのか、大学はどんな雰囲気なのか、将来の夢につながる大学選びにとって、こうした疑問はどれも大切な要素です。

そこで仙台大学では、大学の「中身」をもっと知り、納得のいく大学選びをもらうために、オープンキャンパス「学科一日体験会」を実施します。

是非、皆さんの大学選びの参考にしてください。

スケジュールは、裏面をご覧ください

※入試センター（コンプレックス）の受付は、申込書提出の上、受付時間までです。入試センターは、申込書提出後、入試センターまでお越しください。

※申込書提出後、7月12日（日）に申込書提出の受付が終了します。

※申込書提出後、7月12日（日）に申込書提出の受付が終了します。

※申込書提出後、7月12日（日）に申込書提出の受付が終了します。

仙台大学 入試創職室

TEL.0224-55-1017 FAX.0224-55-0631

ホームページ <http://www.sendaidaigaku.jp>

日本教授学習心理学会第13回年会在開催されました

7月1日（土）・2日（日）、本学LC棟にて日本教授学習心理学会第13回年会（準備委員長：荒井龍弥）が開催されました。

本学会には、幼児から成人まで年齢や校種を問わず、主に教師の視点から学習者の学習を有効適切に援助するための教材内容を重視した研究を行おうとする全国の教師や研究者が集まっています。

今回の年会では約50名の参加者があり、国語・数学・理科・歴史・英語・体育といった幅広い教科領域にわたる23件の個人研究発表をもとに1件あたり約30分の深い議論が行われました。

また初日に行われた日本発達心理学会代表理事の本郷一夫氏（東北大）による講演（「発達支援とは何か—発達連関と学習—」）は



本郷一夫氏（東北大）の講演の様子



学生も運営スタッフとして参加

会員以外にも開放されました。

当学会の年会は、昨年度は山梨大学、来年度は愛媛大学で開催されるなど全国で展開しています。開学50周年にあたるタイミングに本学にて開催できたことで、よいアピールができたと思われま

す。本学からも50周年記念のファイルや付箋を提供いただきました。会期中屋外は梅雨らしい蒸し暑さでしたが、LC棟内は快適で、プロジェクタシステムなどの新たな設備やレイアウトの工夫がしやすい環境にも参加者は感心しきりでした。準備委員として十分に責務を果たすことができました。関係各所に御礼申し上げます。

【報告：教授 荒井 龍弥】